



滑川第1砂防堰堤 [上松町]



額付第1砂防堰堤 [南木曾町]



川上流路工 [中津川市]

木曾川水系砂防

令和8年度 砂防事業の概要



国土交通省 中部地方整備局
多治見砂防国道事務所

多治見砂防国道事務所における砂防事業の概要

- 多治見砂防国道事務所では、木曽川上流域の7支川等の流域面積538.0km²及び庄内川（土岐川）の7支川等の流域面積149.7km²に係る直轄砂防事業と御嶽山火山噴火に係る減災対応を実施しています。
- 主な実施区域は、庄内川の2市（多治見市・土岐市）、木曽川の1市2町1村（中津川市・木曽郡上松町・大桑村・南木曽町）となります。



【庄内川砂防】

庄内川（土岐川）流域は、陶土採掘や山林伐採による林地の荒廃が著しく、昭和32年8月豪雨災害などの土砂災害の再度災害防止を目的に砂防事業を実施しています。

【施設整備状況】

令和7年度末時点で、
庄内川水系内の直轄砂防施設は277施設
（砂防堰堤210施設、溪流保全工67施設）
整備されています。



漫画「進撃の巨人」
協力：諫山創/講談社

深山谷第1砂防堰堤【多治見市】

※モザイクデザインは、講談社より使用許可を得たものを多治見西高校まんが部の生徒によりデザインされたものです。その後、笠原陶磁器工業共同組合によりモザイクタイル化したものを砂防堰堤に設置しています。

【木曽川砂防】

木曽川上流域は、林地の荒廃が著しく、昭和36年梅雨前線豪雨災害（三六災害）などの土砂災害の再度災害防止を目的に砂防事業を実施しています。

【施設整備状況】

令和7年度末時点で、
木曽川水系内の直轄砂防施設は213施設
（砂防堰堤194施設、溪流保全工19施設）
整備されています。



四ツ目遊砂工【中津川市】

庄内川水系の概要

流域の概要

庄内川（土岐川）は、その源を岐阜県恵那市山岡町の夕立山（標高727m）に発し、幾多の溪流を合わせて流下し愛知県に入り、名古屋市の北西部を貫流し伊勢湾に流入する流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。なお、庄内川は、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。

庄内川（土岐川）直轄砂防流域は、肥田川、妻木川、生田川、笠原川、市之倉川、高田川、大原川の各支川が流れ込む土岐川下流部の2市（多治見市・土岐市）にわたる流域面積149.7km²の流域です。

都市化による危険性の増大

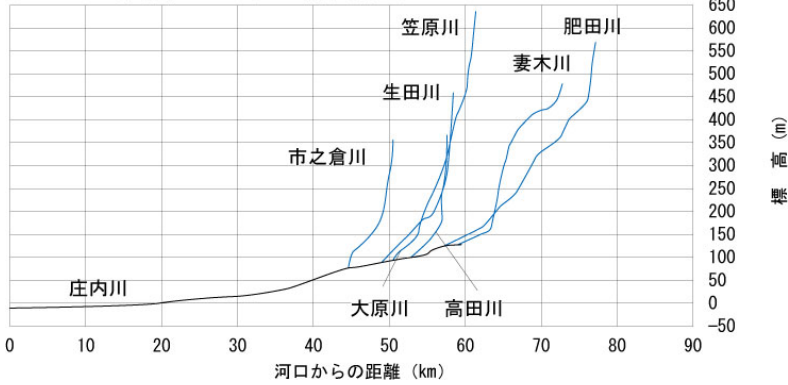
人口増加が著しくなった高度成長期からは、山裾近くまで宅地開発による都市化が進み、土砂災害の危険性がより高まっています。

窯業の発展に伴う山の荒廃

流域には、陶磁器生産に適する瀬戸層群が堆積しており、尾張藩の奨励もあって、江戸時代中頃から、瀬戸・多治見地方は焼き物が盛んとなりました。

周辺の丘陵では陶土の採掘や薪を得るための山林伐採が盛んに行われてきました。このため、大雨が降れば、荒れた丘陵から土砂が流れ出して庄内川支川等の河床を上昇させ、氾濫が繰り返し発生しました。

庄内川流域の河川縦断面図



昭和初期庄内川流域



平成13年ごろの庄内川流域



過去の荒廃状況

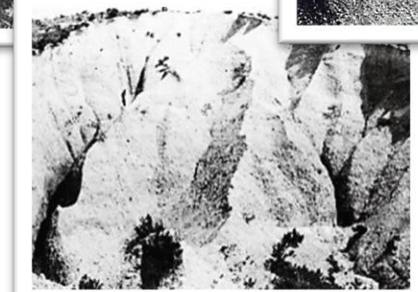
庄内川流域は未固結の粘土層や風化しやすい花崗岩が分布していることに加え、複数の断層が存在し、土石流や崩壊が発生しやすい地形・地質構造となっています。このため、地震や降雨により崩壊が生じ、庄内川本川まで多量の土砂が流出する可能性が高い状況にあります。



昭和10年代の土岐郡笠原町（平園川上流）



昭和20年代後半山腹工施工（昭和27～28年）



昭和20年代の多治見市長瀬町（多治見IC北）



現在の山腹工施工地（平成14年）

過去の主な災害（庄内川水系）

「庄内川水系」

昭和32年8月 豪雨による災害（多治見市・土岐市）

豪雨により多治見市・土岐市で多数の山腹・溪岸崩壊が発生
浸水被害も甚大であった

多治見市で
床上・床下浸水5,158戸、
全壊・半壊家屋住家52戸、
土岐市で
床上・床下浸水4,456戸、
全壊・半壊住家69戸



通行止めになった県道



土砂流出により埋まった家屋

平成元年9月 台風22号による災害（多治見市・土岐市）

台風22号により多治見市・土岐市で多くの浸水や土砂災害が発生

多治見市で
床上・床下浸水33戸、
土岐市で
床上・床下浸水459戸、全半壊5戸、
崩壊により死者1名



土岐市内の浸水状況



崩壊した斜面（土岐市西山）

平成11年6月 梅雨前線による災害（多治見市・土岐市）



肥田川支流から流出した土砂と流木



土岐市内の浸水状況

平成23年9月 台風15号による災害（多治見市・土岐市）

台風15号により多治見市・土岐市で多くの浸水や土砂災害が発生
床上浸水228戸、床下浸水195戸、
死者2名、行方不明1名



道路を塞ぐ土石流(多治見市)



多治見市平和町

直轄事業化までの経緯（庄内川水系）

【庄内川砂防】

- ・庄内川流域では、窯業や生活燃料としての薪材の乱伐等により林地が荒廃していました。
- ・山地から流出した土砂による河床上昇によって、氾濫が誘発されやすい状況にありました。

【江戸時代】

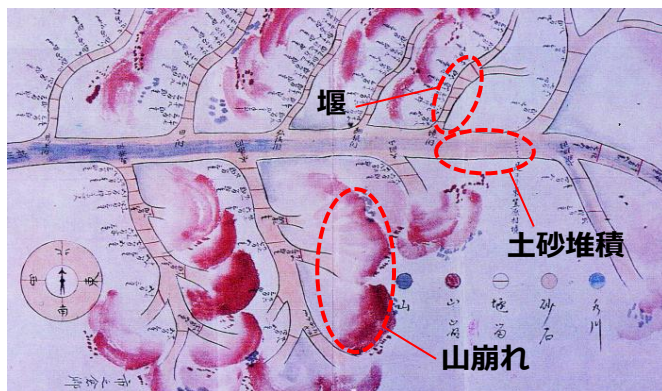
「石砂留普請（いしすなどめふしん）」と呼ばれる
川普請（治山・治水工事）を実施

【明治12年】

ヨハネス・デレーケが、
「庄内川山丘土砂流送の件」を内務省に提出

【大正6年】

愛知県と岐阜県が費用分担し、
庄内川上流（岐阜県）の砂防工事を実施



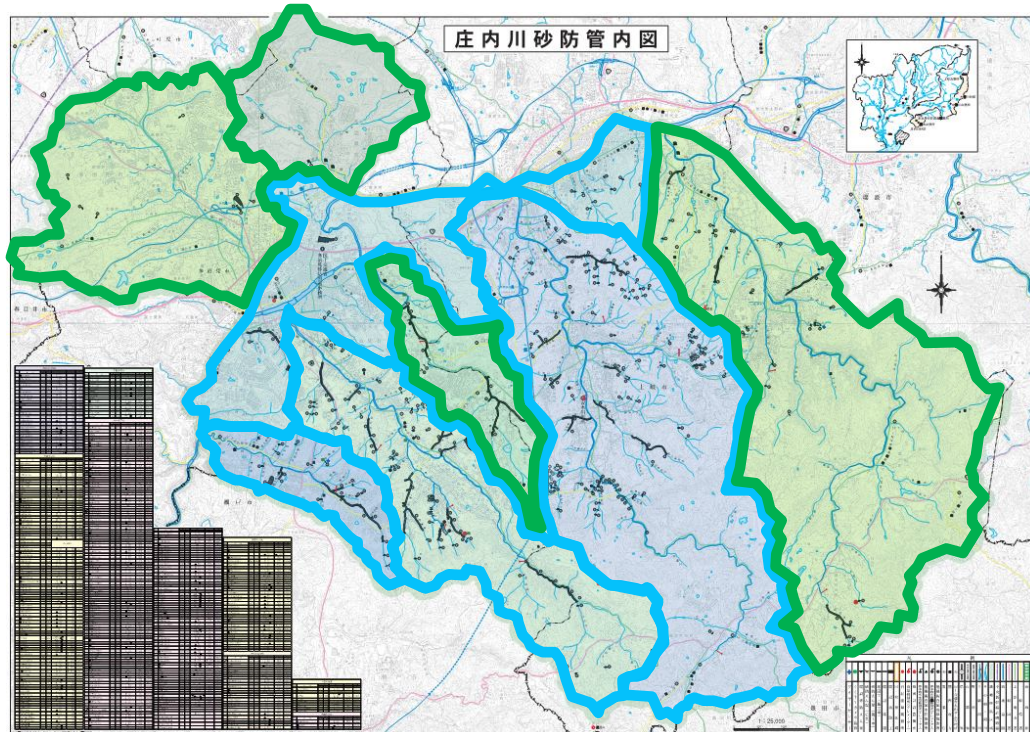
市之倉川とそれに流れ込む支流における普請箇所を示す
「市之倉郷石砂留普請絵図」（多治見市図書館郷土資料室提供に一部加筆）

【昭和12年～16年】

直轄砂防事業を開始
（妻木川・笠原川）
（市之倉川はS14年、土岐川本川残流域はS16年）

【昭和25年～32年】

直轄砂防事業を順次拡大
（肥田川S25年・生田川S26年・大原川S27年
・高田川S32年）



庄内川水系（管内図）

流域の概要

木曽川は、その源を長野県木曽郡木祖村鉢盛（はちもり）山（標高2,446m）に発し、古来から木材（ヒノキなど木曽五木）の産地として名高い木曽谷を南南西に流下し、岐阜県中津川市に入り、落合川・中津川・阿木川・飛騨川等の諸川を合わせ、愛知県犬山市で濃尾平野に出て南西に流下します。その後、長良川と並流して伊勢湾に注ぐ、流域面積5,275km²、幹川流路延長229kmの一級河川です。

木曽川直轄砂防区域は、長野県の木曽谷から岐阜県中津川市に至る木曽川の左岸側に位置し、南北42km、東西10km超となる流域面積約538km²となります。

もろい地質と急な斜面

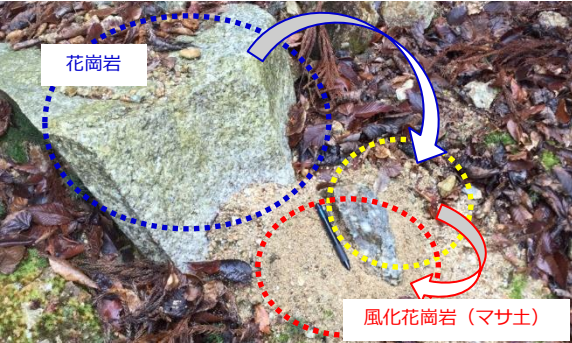
東部の駒ヶ岳・空木（うつぎ）岳・摺古木（すりこぎ）山から東南端の恵那山に連なる標高1,500～3,000m級の木曽山脈（中央アルプス）に囲まれた、急峻な山岳地帯です。また、地形が急峻であることに加え、地質的には山岳部の中央が新期花崗岩（領家変成岩）及び石英斑岩から成り、風化が著しく、複数の断層が発達・並走し、崩壊土砂の生産が活発な地域となっています。

急流河川と河岸段丘が連続してつながる地形

上流部は河岸段丘が連続してつながる地形で、段丘面に人口や資産が集中しています。3,000m級の山々が連なる中央アルプスから流れこむ支川は、木曽川本川よりもさらに急勾配となっているところが多いです。

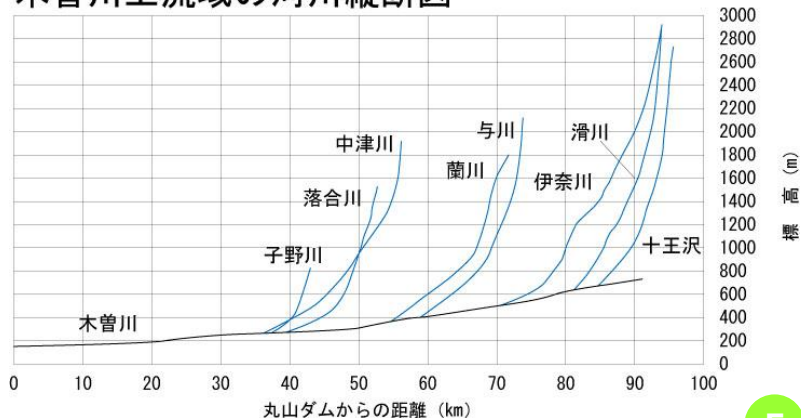
中央アルプスから流れ出る支川溪流(滑川)

■風化等による花崗岩の変化の様子



木曽川や滑川の河原では、白くて大きな岩をたくさん見ることができます。花崗岩と呼ばれる岩です。花崗岩はとても硬い岩石ですが、水などの作用で風化しやすくなる性質を持っています。

木曽川上流域の河川縦断面図



(m) 標高

過去の主な災害（木曽川水系）

「木曽川水系」

明治37年7月 「蘭川水害」による災害（南木曽町）

1904（明治37）年7月9日から11日にかけて豪雨のため
蘭川流域の各所で土石流が発生
死者52名
負傷者17名
流出家屋57戸



南木曽町 蘭地区 額付川・旧道

大正12年7月 「蛇抜け」集中豪雨による災害（大桑村）

梅雨末期の集中豪雨が1週間程度続き7月18日に蛇抜けが発生
死者26名、負傷者34名、流出家屋31戸

昭和7年8月 「四ツ目川災害」集中豪雨による災害（中津川市）

集中豪雨により四ツ目川が氾濫
中津川市内
死者2名、負傷者24名、
流出家屋73戸、全半壊住宅297戸、
土石流入家屋212戸、
橋の流失18ヶ所、道路決壊18km



中津川市内の被災状況



中津川市内の被災状況

昭和28年7月 「伊勢小屋蛇ぬけ」土石流による災害（南木曽町）

豪雨により国鉄中央本線が不通となり
落合村が孤立
犠牲者3名、
流失家屋5戸



○碑文解説

白い雨が降るとぬける

しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる状況になると「蛇ぬけ」が発生する。

尾先 谷口 宮の前

尾根の先端、谷の出口、お宮の前には家を建てるな。この災害は「谷の出口」で起こっている。

雨に風が加わると危ない

風によって木の根がゆるみ、流木の発生が促進されることがある。

出典「『蛇ぬけの碑』の教訓」（平成22年度（社）砂防協会 通常総会並びに研究発表会「長野大会」）を加筆

長雨後 谷の水が急に止まったら ぬける

学校へ行く途中、伊勢小屋沢土橋付近の水量は、少ないように思った。

蛇ぬけの水は黒い 蛇ぬけの前はきな臭い匂いがする

水の色はドス黒く、ドロのような臭いが鼻をついて、なんとも言い表せない恐ろしさを感じた。

○「じゃぬけ 伊勢小屋沢その後の45年」を加筆

1953年（昭和28年）7月20日に発生した「蛇ぬけ（土石流）」の犠牲者3名の慰霊と、悲惨な災害を2度と起こさないことを願い、7周年にあたる1960年（昭和35年）に建設されました。

昭和41年6月 「南木曽災害」豪雨による災害（南木曽町）

豪雨により南木曽町を中心に各所で土石流が発生
三留野地区をはじめとして
家屋流出、全壊38戸、半壊111戸、橋梁の流出等



土石流に破壊された家屋



南木曽橋の主桁にせまる濁流
〈出典：「中部の水害」〉

【木曽川砂防】

◆木曽川下流域（中津川市）

【昭和7年】

四ッ目川災害により中津川市街に
壊滅的な被害

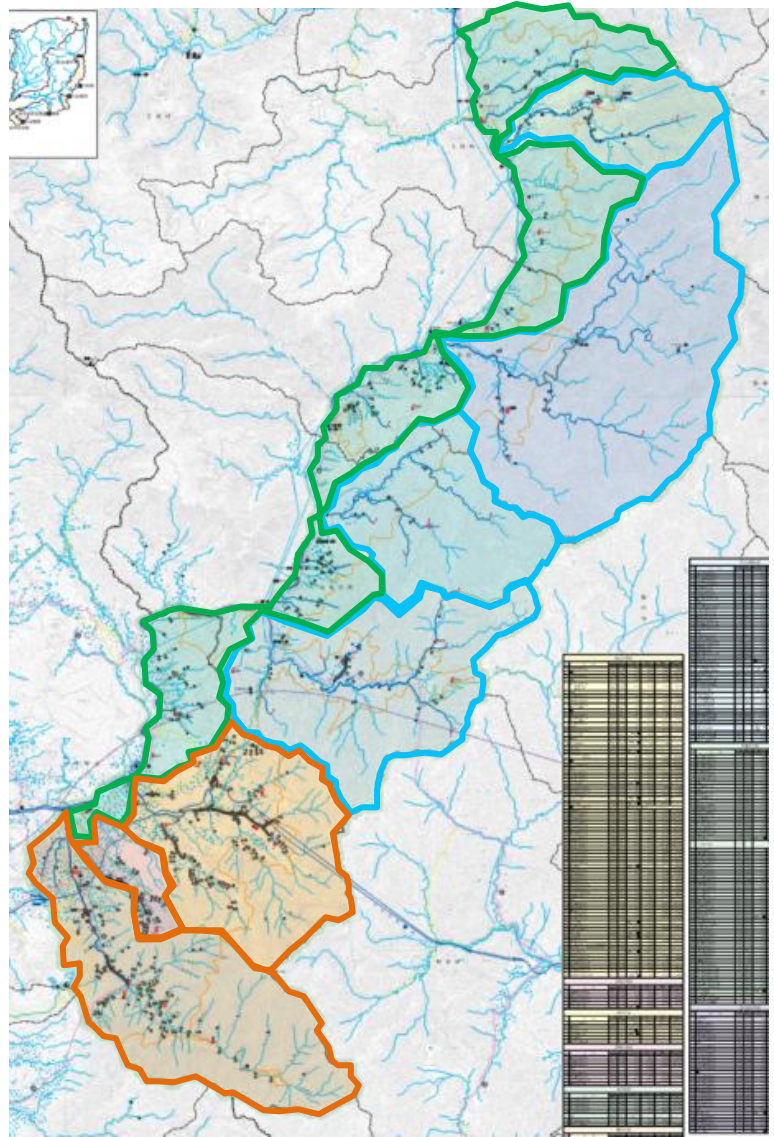


四ッ目川災害(中津川駅構内)



【昭和12年】

直轄砂防事業を開始
中津川、子野川、落合川



木曽川水系（管内図）

◆木曽川上流域（南木曽町～上松町）

【昭和41年】

南木曽町三留野他で土石流による
甚大な被害

【昭和50年】

七夕災害など土砂災害が頻発



南木曽災害(南木曽町内)



【昭和53年】

直轄砂防事業を開始
(滑川、伊奈川、与川、蘭川)

【平成元年】

直轄砂防事業を拡大
(残流域)

近年の災害（梨子沢土石流）

平成26年7月9日 長野県南木曾町で発生した土石流災害

平成26年7月9日に、長野県木曾郡南木曾町を流れる梨子沢において大規模な土石流が発生し、死者1名・軽傷3名、住宅全壊10棟・一部損壊3棟などの甚大な被害が生じました。また、JR中央本線では橋梁が流出し、国道19号には大量の土砂が流出するなど、交通機関にも大きな影響を与えました。



災害復旧状況

梨子沢の災害復旧工事には、国土交通省、林野庁中部森林管理局、長野県、南木曾町が連携して取り組みました。



< 梨子沢第2砂防堰堤 >



災害後に、緊急的に除石を実施しました。

< 梨子沢第1砂防堰堤 >



< 梨子沢第3砂防堰堤 >



< 梨子沢第4砂防堰堤 >



近年の災害（御嶽山噴火災害）

平成26年9月27日 御嶽山で発生した火山噴火災害

平成26年9月27日に、岐阜県と長野県をまたぐ御嶽山において火山噴火災害が発生しました。災害発生直後より、土砂災害防止法に基づく緊急調査に着手し、二次災害防止等の対策として監視カメラ、ワイヤーセンサー、ブロック積み砂防堰堤等を設置しました。



噴火直後の上空からの様子



ワイヤーセンサーの設置状況



ブロック積み砂防堰堤設置の状況



シミュレーションの実施状況



土砂流出による影響範囲のシミュレーション結果



監視カメラの設置状況



緊急調査（降灰状況調査）の実施

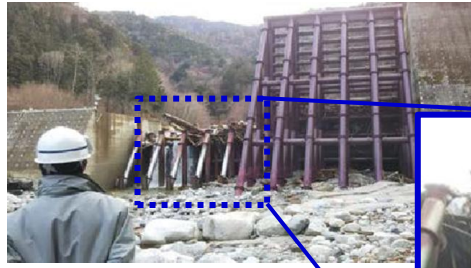
主な効果事例

越百川第3砂防堰堤（土砂等の捕捉）

鋼管部の高さが日本一の透過型ハイダム堰堤

21.0m

R3年3月完成



捕捉土砂量：約20,000m³
 総雨量：①136mm
 (8月15日22時～8月16日21時)
 ②99mm
 (9月4日7時～9月5日11時)

時間最大雨量：①35mm (8月16日16時～17時)
 ②23mm (9月4日17時～18時)

平成30年8～9月の大雨により土石流が発生し、整備途中ではあったものの土砂・流木を捕捉し被害を防止



H30年12月撮影

滑川第1砂防堰堤（除石）

令和3年8月の大雨により土砂移動が発生し、事前防災の除石効果により土砂等を捕捉し被害を防止

捕捉土砂量：約90,000m³
 連続雨量：347mm (発生まで) (8月12日14時～8月14日22時)
 時間最大雨量：43mm (8月14日21時～22時)

滑川第一砂防堰堤 主な既往土砂捕捉実績 (直近)

年	H16	H22	R2	R3
捕捉量 (m ³)	80,000	64,000	50,000	90,000



除石作業状況

土砂移動発生前 令和2年5月



除石範囲

土砂移動発生直後 令和3年8月16日

捕捉土砂量 約90,000m³



本谷第1砂防堰堤

令和3年8月の大雨により土砂移動が発生。既設と改築中の砂防堰堤が土砂を捕捉し、下流への被害を未然に防止。

地獄谷第4砂防堰堤

令和3年8月の大雨により土砂移動が発生。透過型砂防堰堤が、土砂と流木を捕捉し下流地区の被害を未然に防止。



<土砂流出前>

捕捉土砂量 約12,000m³



<流出土砂捕捉後>



地獄谷第4砂防堰堤



流木により閉塞 満砂



<出水前の状況>



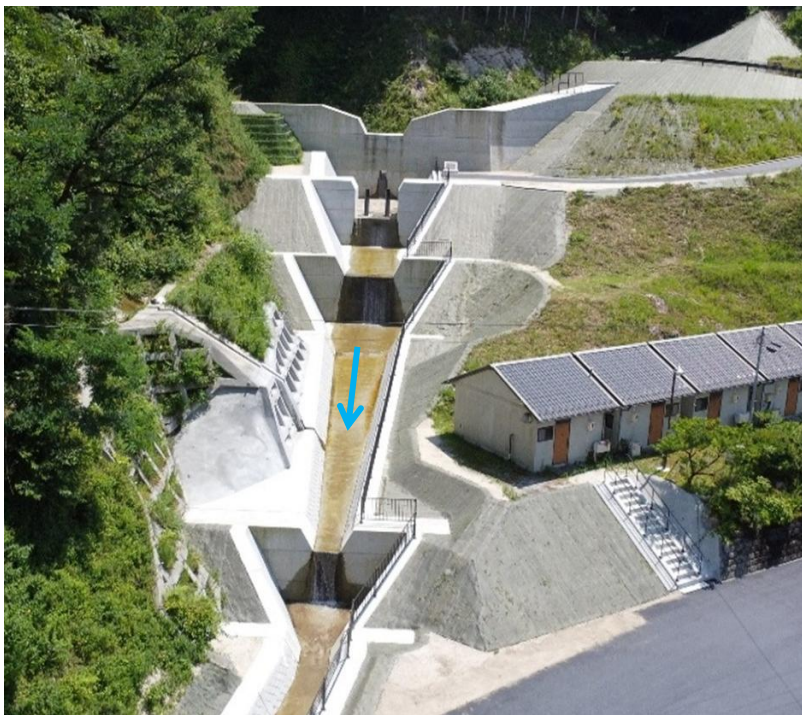
<出水後の状況>

近年の施工状況

アラクラ沢砂防堰堤（中津川市）

木曾川流域のアラクラ沢では、平成28年9月の豪雨により大規模な土砂流出が発生し、商業施設2施設が被災しました。これを受け、多治見砂防国道事務所では再度災害の防止を目的に、令和2年度より砂防堰堤の整備に着手いたしました。

令和2年9月29日の着工以来、順調に工事を進め、令和7年7月31日に工事が完了しました。



アラクラ沢砂防堰堤（堤長：58.5m、堤高6.5m）



土石流発生状況（下流から）【平成28年9月23日】



土石流発生状況（上流から）【平成28年9月23日】

星ヶ台砂防堰堤（多治見市）

星ヶ台堰堤は、令和8年3月16日に告示された「無流水溪流対策に係る技術的留意事項」に基づき、「無流水溪流対策施設」として全国で初めて施工された施設（モデルケース）で、令和7年に着工・完成しました。本現場は住宅密集地に隣接しており、従来の大型堰堤では工事用道路の確保が難しく、工期が長期化する課題があったため、小規模な溪流特性に合わせ、左右の支溪に「土石流フェンス」を設置することで、施工機械の小型化、工事車両や施工日数の縮減を行い、土砂災害に強いまちづくりを実現しました。



星ヶ台砂防堰堤（堤長：第1:15.6m、第2:18.2m
堤高：第1: 4.0m、第2: 5.3m）



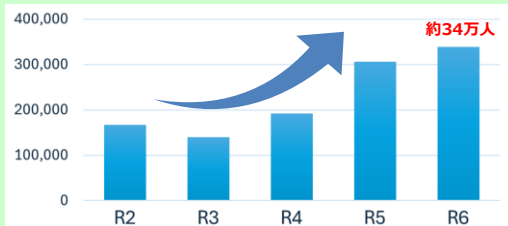
下流の状況

地域のなりわいを守る砂防事業 (地蔵沢第1砂防堰堤 (長野県南木曾町 妻籠宿))

長野県南木曾町の妻籠宿は、日本三大宿場町の一つに数えられ多くの観光客が訪れる観光資源である一方、土砂災害のリスクを抱えています。砂防堰堤の整備を推進し、地域のなりわいを支える歴史的資産である宿場町と重要路線である国道256号線を守ります。

■ 歴史的・文化的価値と観光産業の保全

多くの観光客が訪れる人気観光地である妻籠宿は、コロナ禍後、観光客数は右肩上がりの回復を記録し、インバウンドが急増。



出典: 令和6年観光地利用者統計調査結果

■ インバウンド効果もあり 活気つく宿場町の街並み



出展: 南木曾観光協会



DXの取り組み UAV (無人航空機) 自立飛行による溪流点検の効率化

土砂災害発生時には土砂や流木による被災状況を早期に把握する必要がありますが、迅速な調査着手及び調査時における安全確保が課題となっています。

この課題解消のため、UAV (垂直離着陸型固定翼ドローン) での長時間・長距離の自立飛行による、土砂災害時の点検を想定した実証試験 (レベル3: 5飛行) を行いました。

実証試験では、迅速な調査及び安全確保が可能と分かり、有用な調査結果を得ることができましたので、今後の点検業務の効率化が期待されます。

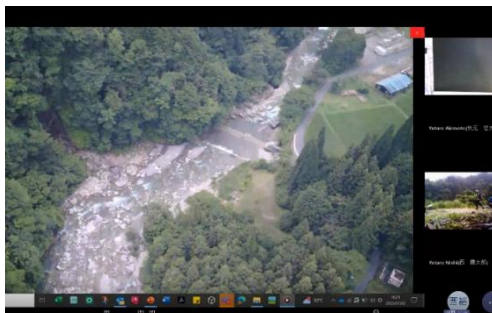
※レベル3: 5飛行とは、従来補助者を配置し対応していた安全確保を、ドローンの機上カメラにより代替する飛行です



(垂直離着陸型固定翼ドローン)



UAV飛行準備状況



Web会議ツールによる映像配信



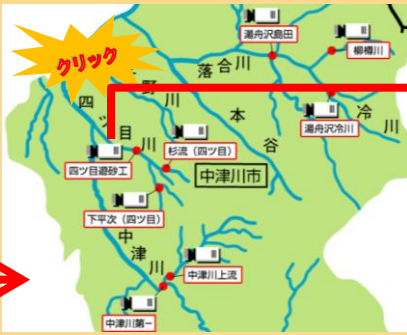
事務所でのリアルタイム映像確認

土砂災害の監視体制の整備

CCTVカメラによる映像の配信 (多治見砂防国道事務所ホームページ)

洪水時等における土砂の流出状況や砂防堰堤の施設状況を把握などのため、監視カメラの映像を事務所ホームページで配信しています。

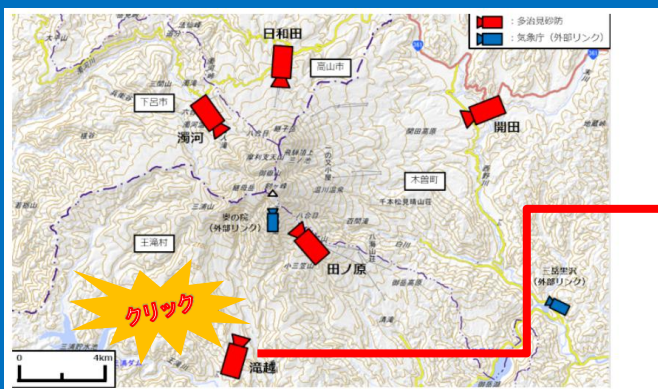
木曽川砂防・庄内川砂防カメラ https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/desk/sabou_live.html



長野県南木曽町梨子沢で発生した土石流の状況 (CCTVカメラがとらえた映像)
https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/mov/camera_rec.html



御嶽山カメラ <https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/ontake/>



(※地図は地理院地図(国土地理院HP)を活用、カメラの位置はおおよその位置)



御嶽山の噴火状況 (CCTVカメラがとらえた映像)



減災対策の取組（1）

市町村・県と連携した合同防災訓練の実施

合同防災訓練は、大規模土砂災害発生時の関係機関の災害対応能力の向上や連携強化を目的とした訓練で、平成18年度より管内の6市町村（土岐市、上松町、南木曾町、大桑村、多治見市、中津川市）にて順次実施しています。

<令和7年度 大規模土砂災害合同防災訓練>

令和7年6月5日に南木曾町を対象として開催しました。



各機関が災害時の対応について議論



関係機関の連携内容等を協議

■ 訓練概要

関係機関の対応の「見える化」と連携強化を目的に、今年度は長野県南木曾町にて同時多発的な土石流等を想定した訓練を実施しました。当日は参加者28名、見学者27名が集まり、「降雨終了直後」や「二次災害の恐れ判明時」の対応に焦点を当てて検証を行いました。各機関の役割を相互に確認し、顔の見える関係を深めることで、地域全体の災害対応能力の向上を図りました。

令和6年度 多治見砂防国道事務所災害協定の締結

砂防事業（御嶽山を含む）管内において災害が発生した場合に、被害の拡大防止や被災施設の早期復旧を図るために実施する応急対策業務に関する協定（3カ年）を、令和6年4月1日に土木関係建設コンサルタント等の10者と締結しました。

■ 協定の業務内容

土石流等の氾濫シミュレーション、UAVによる公共測量、土石流等の監視、緊急応急対策検討等

■ 協定の区域

多治見砂防国道事務所砂防事業（御嶽山を含む）管内

【協定の区域】



土石流監視の検討



UAVによる測量・変状計測

業務内容イメージ

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画の概要

1. 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画
 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画は、御嶽山の噴火に伴って起きる**土砂移動(土砂災害)**による被害をできる限り軽減(減災)することを目的として、平成23年(2011年)7月に策定運用してきたが、平成26年(2014年)9月の噴火後に実施した緊急減災対策を踏まえて抽出・整理した課題への対応策や、計画の実効性向上に向けた取り組みの記載など、砂防計画全体を見直し策定した。

2. 対象とする土砂移動現象
 緊急ハード対策で対象とする現象は、**降灰後土石流、融雪型火山泥流**とする

降灰後土石流

火山灰等が堆積した斜面への降雨で発生する現象。少量の降雨でも起こり、噴火終了後も数年間、継続して発生することがある。



雲仙普賢岳1991年噴火後に発生した土石流(撮影:国土交通省)

- ・想定噴火: 水蒸気噴火 (10万m³DRE)
- ・降雨: 2年超過確率規模(緊急ハード)、100年超過確率規模(緊急ソフト)
- ・対策対象: 降灰堆積厚が5cm以上となる土石流危険渓流のうち、保全対象が被災する可能性のある溪流(5箇所)

融雪型火山泥流

噴火による高温の噴出物が、火口付近の積雪を急速に解かし、それによって発生した大量の水が周辺の土砂をまき込みながら流下する現象。



1926年十勝岳噴火に伴った融雪型火山泥流の跡 (出典:上富良野町郷土館 大正15年十勝岳大爆發記録写真集、1980)

- ・想定噴火: マグマ噴火(1000万m³DRE)
- ・誘因現象: 中規模火砕流(温度800度)
- ・積雪: 年間最大積雪量の平均値 (火口付近で165cm,密度0.4g/cm³)
- ・対策対象: 上記火砕流の流下が想定される11方向で想定し、保全対象が被災する可能性ある箇所(14箇所)

3. 緊急対策の考え方
 噴火に伴う土砂移動現象(土砂災害)から、**住民や観光客の避難路を保全し、生命・財産の被害をできる限り軽減(減災)すること**を基本方針とする。
 緊急対策は、噴火等が発生している**非常時対応**と火山活動が平穏な**平常時対応**との組み合わせである。
 緊急対策は限られた時間、資機材による対策であり、**対応可能な現象・規模には限界がある**ことに留意する。
 限られた**時間と資機材を有効利用**するため、**緊急ハード・ソフト対策**を組み合わせる柔軟に対応する。
 緊急時の対応の実効性向上に向けて、**平常時からの準備**(資機材の備蓄、情報伝達・共有手段の確認、訓練など)を実施する。

4. 緊急ハード対策

噴火に伴い発生する土砂移動(土砂災害)に対して、**効果を最大限発揮できる箇所**で実施する。
 対策工法として、**コンクリートブロック積み砂防堰堤、護岸の嵩上げ等**、保全対象上流側に既設砂防堰堤がある場合は**除石**などを実施する。
 対策実施に際しては、**無人化施工**も視野に入れて検討する。

コンクリートブロック積み砂防堰堤
(鹿ノ瀬川、国土交通省中部地方整備局)

大型土のうによる護岸の嵩上げ
(鈴ヶ沢、長野県)

砂防堰堤の除石
(湯川、長野県)

H26噴火時の対応事例

5. 緊急ソフト対策、以下の対策を実施する。

火山活動が活発化した際に現状を把握するため、**緊急調査**を実施する。
噴火時の状況把握や**関係機関や住民等への情報提供**などを行い、火山活動の推移に応じて、以下の対策を実施する。

- ・ **監視・観測機器**の緊急的な設置
- ・ **リアルタイムアナリシス型およびプレアナリシス型リアルタイムハザードマップ**等による氾濫範囲の想定
- ・ 緊急ハード対策施工時の**安全管理**

内容	監視・観測機器の緊急的な設置		情報通信システム・緊急電源の整備	
項目	土砂移動検知センサの設置	監視カメラの設置	衛星通信車・衛星通信可搬機の整備	ソーラーパネル・バッテリーの設置
イメージ				
内容	リアルタイムハザードマップの作成・提供		土砂災害防止法にそとづく緊急調査	
項目	プレアナリシス型	リアルタイムアナリシス型	降灰量調査	土砂災害緊急情報の発表
イメージ				

御嶽山における緊急ソフト対策イメージ

土石流検知センサ

監視カメラ

H26噴火時の対応事例

6. 実効性向上に向けた取り組み

緊急ハード・ソフト対策を**迅速かつ効率的に実施**するため、**平常時から準備**を行う。――→

- ・ 緊急ハード・ソフト対策図面の作成
- ・ 必要資機材の把握と備蓄
- ・ 工事用道路の整備
- ・ 関係機関との調整(許認可)
- ・ 対策箇所での用地確保と砂防指定地化
- ・ コンクリートブロックの作成と備蓄
- ・ 対策箇所での地権者確認と使用許諾

関係機関での**役割分担**を確認しつつ、**継続的な連携・情報共有**が必要である。
 関係機関参加による、噴火を想定した**防災演習**を実施する。
住民等への防災教育や広報活動等を通して御嶽山や土砂防災の理解を広める。
 最新の対策工法や監視観測技術等を活用し、**技術開発の推進**を図る。

令和6年1月 能登半島地震に伴う被害状況調査を支援

国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」は、大規模な自然災害時に、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方公共団体を支援するもの

■ TEC-FORCE砂防班1班4名の派遣

令和6年1月の能登半島地震による被災状況調査のため、多治見砂防国道事務所は職員4名をTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）として、令和6年1月3日～6日まで、石川県輪島市に派遣しました。



石川県庁での合同会議



急傾斜地の被災状況調査



地元の方への被災状況聞き取り



UAVによる被災状況調査

令和6年8月 東北地方の豪雨に伴う被災状況調査を支援

■ TEC-FORCE砂防班1班2名の派遣

令和6年7月25日からの大雨による被災状況調査のため、多治見砂防国道事務所は職員2名（+越美砂防事務所2名）をTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）として、令和6年8月3日～10日まで、山形県庄内町に派遣しました。



UAVによる被災状況調査



急傾斜地の被災状況調査

地域と協働した取組

グリーンベルト事業、里山砂防事業

多治見市、土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、行政（市・県・国）と地域（住民・中学生）が連携して保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

< 基本理念 >

土岐川流域グリーンベルト整備事業は、互いの連携・協力のもと、はげ山から再生した丘陵を、より安全で豊かな都市山麓につくりあげていくものである。

< 基本方針 >

- ・山麓斜面を防災的に強い樹林地とし、土砂災害を防止する
- ・土砂災害の恐れのある地域に対し、適正な土地利用に誘導する
- ・防災機能が高く、種の多様性に富む樹林地を保全・創出する
- ・生活に憩いをもたらす自然景観を保全する
- ・身近な自然体験（環境学習や森林レクリエーション）の場を提供する

■ 樹林整備活動（里山砂防）地区



■ 目指す樹林の姿



- マツ枯れによるアカマツの立枯れ・折損・倒木
- 常緑広葉樹の低木・亜高木林の繁茂
- ・切る木
ヒサカキ・ソヨゴなどの常緑樹、樹種を問わず株立ちしている木で、細い木、枯れている木
- ・残す木
ツツジ・コナラ等の落葉樹、樹種を問わず太くて丈夫な木など



目標樹林（落葉広葉樹林）
様々な木や下草が“バランスよく生育する森”へ

■ 地域協働によるグリーンベルト事業と里山砂防事業



地域共働による
身近な自然体験の場の提供



市民による樹林整備活動



記念発表会
手づくり郷土賞 授与式

■ 中学校と連携した活動状況（例年実施している主な活動）



室内学習「砂防・森のはなし」



樹林地での観察



森の木の観察

小学生等を対象とした防災教育の取組・広報活動（1）

砂防教室・あおぞら教室

毎年6月の土砂災害防止月間を中心に、管内の小学生（主に4年生）を対象として、土砂災害をはじめとした防災を学ぶ場「砂防教室・あおぞら教室」を開催しています。



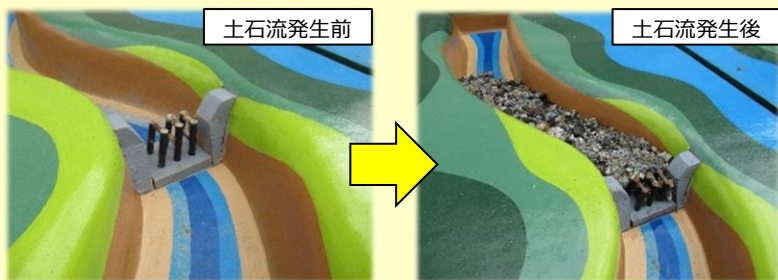
ハザードマップを使用した学習



四ツ目遊砂工の見学



本物の水と土砂で土石流模型実験を体験



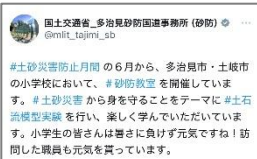
土石流発生前

土石流発生後

砂防堰堤が土石流を止めている状況が一目瞭然！

X（旧Twitter）による情報発信

砂防事業の魅力を広く知ってもらうため、SNSを活用した情報発信を行っています。



本日、#南木曾 小学校にて #防災 講座が開催されました。防災カルタや #マイハザードマップ 作製で小学生の皆さんには楽しく防災を学んでいただけたと思います。鋭い質問にドキッとすることもありましたが、皆さんの真剣な表情がとても印象的です

#砂防
#土石流
#わすれない



事務所公式アカウント
ぜひフォローください！



国土交通省 多治見砂防国道事務所 (砂防)
(@mlit_tajimi_sb)/X

Mobile.X.com

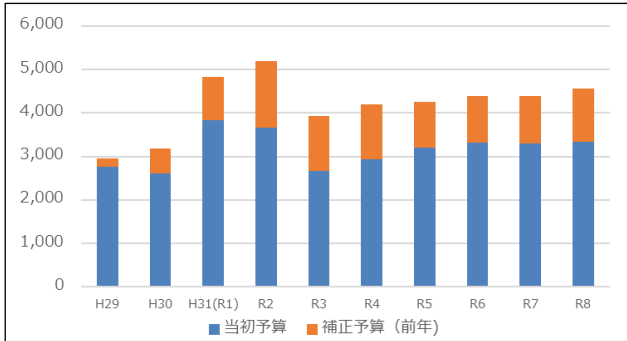
令和8年度の直轄砂防事業（1）

直轄砂防事業費

（単位：百万円）

流域名	R6補正	R7当初	R7補正	R8当初	R8/R7当初比	(R7補正+R8当初)/R7当初比	(R7補正+R8当初)/(R6補正+R7当初)比
木曾川水系	1,030	2,755	1,090	2,780	1.01	1.40	1.02
庄内川水系	70	540	140	548	1.01	1.27	1.13
合計	1,100	3,295	1,230	3,328	1.01	1.38	1.04

直轄砂防事業費 予算推移



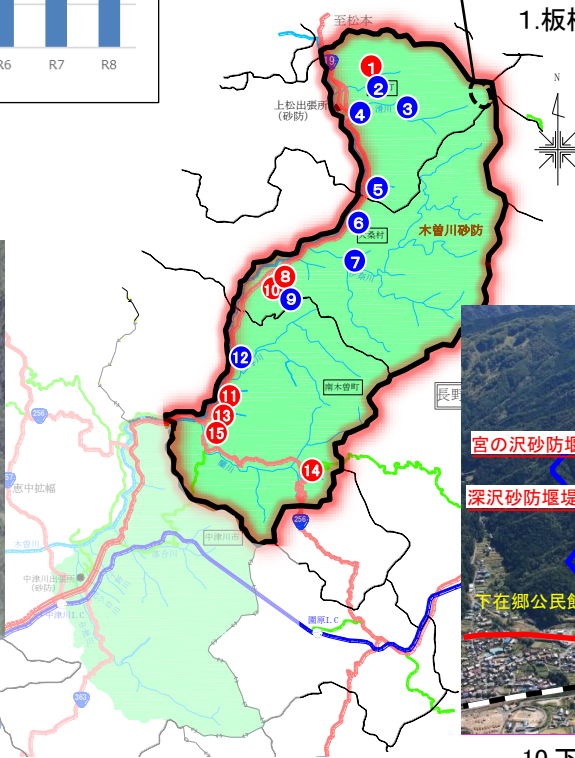
滑川上流の崩壊状況



1.板橋沢第1砂防堰堤(上松町)



13.戦沢第2砂防堰堤(南木曾町)



凡 例	
● (Red)	工事中
● (Blue)	計画・調整



10.下在砂防堰堤工群(大桑村)

木曾川砂防（長野県）の事業箇所

（単位：百万円）

事業区分	水系	河川名	溪流名	箇所名	所在地		工種	R7補正	R8当初	計	備考	
					市・郡	区・町・村						
砂防												
木曾川水系（長野県）												
1	木曾川	木曾川	板橋沢	いたはしざわだいちさほらえんてい	木曾郡	上松町	小川	砂防堰堤工	-	222	222	
2	木曾川	木曾川	十王沢	じゅうおうざわだいちさほらえんてい	木曾郡	上松町	小川	砂防堰堤工	-	22	22	
3	木曾川	滑川	滑川	なめかわのりさこう	木曾郡	上松町	小川	遊砂地工	-	37	37	
4	木曾川	滑川	滑川	なめかわのりさこう	木曾郡	上松町	荻原	床固工	-	32	32	
5	木曾川	木曾川	大沢	おおさわだいちさほらえんてい	木曾郡	上松町	荻原	砂防堰堤工	-	32	32	
6	木曾川	木曾川	猿沢	さるさわだいちさほらえんてい	木曾郡	大桑村	上郷	砂防堰堤工	-	36	36	
7	木曾川	伊奈川	矢垂沢	やたれさわほらえんてい	木曾郡	大桑村	長野	砂防堰堤工	-	32	32	
8	木曾川	木曾川	太田	おおただいちさほらえんてい	木曾郡	大桑村	野尻	砂防堰堤工	-	222	222	
9	木曾川	木曾川	二反田川	にたんだいちさほらえんてい	木曾郡	大桑村	野尻	砂防堰堤工	-	34	34	
10	木曾川	木曾川	深沢、宮ノ沢、蛇抜沢、中河原沢	しもざいさほらえんてい	木曾郡	大桑村	野尻	砂防堰堤工	150	27	177	
11	木曾川	木曾川	蛇抜沢	わごらじやぬけざわちんさちこう	木曾郡	南木曾町	和合	遊砂地工	150	81	231	
12	木曾川	与川	与川	よがわだいちさほらえんてい	木曾郡	南木曾町	読書	砂防堰堤工	-	31	31	
13	木曾川	蘭川残	戦沢	せんさわだいちさほらえんてい	木曾郡	南木曾町	吾妻	砂防堰堤工	-	201	201	
14	木曾川	蘭川	桂川	かつらがわだいちさほらえんてい	木曾郡	南木曾町	広瀬	砂防堰堤工	120	81	201	
15	木曾川	蘭川	地藏沢	じぞうさわだいちさほらえんてい	木曾郡	南木曾町	吾妻	砂防堰堤工	150	81	231	
16	木曾川			あけまつかんないさほらえんてい	木曾郡	上松町、大桑村、南木曾町		砂防堰堤工	-	457	457	
				上松管内砂防施設改築					570	1,628	2,198	

令和8年度の直轄砂防事業（2）

木曾川砂防（岐阜県）の事業箇所

（単位：百万円）

事業区分	水系	河川名	溪流名	箇所名	所在地			工種	R7補正	R8当初	計	備考
					市・郡	区・町・村	字名等					
砂防												
木曾川水系（岐阜県）												
1	木曾川	木曾川	和田沢	和田ざわさほうえんてい 和田沢砂防堰堤	中津川市	山口	砂防堰堤工	-	171	171		
2	木曾川	木曾川	新梨沢	しんしきさわさほうえんてい 新梨沢砂防堰堤	中津川市	山口	砂防堰堤工	180	-	180		
3	木曾川	落合川	落合本谷	ほんがたさほうえんていかいちく 本谷砂防堰堤改築	中津川市	落合	砂防堰堤工	170	103	273		
4	木曾川	中津川	中津川	なかつがわだいにしゅうにきぼろえんてい 中津川第1・2砂防堰堤	中津川市	中津川	砂防堰堤工	-	188	188		
5	木曾川	中津川	弥太洞	やたほらだいさんきさほうえんてい 弥太洞第3砂防堰堤	中津川市	川上	砂防堰堤工	-	41	41		
6	木曾川	子野川		このがわだいさんきさほうえんてい 子野川第3砂防堰堤	中津川市		砂防堰堤工	-	171	171		
7	木曾川			なかつがわかんないさほうしせつつかいちく 中津川管内砂防施設改築	中津川市		砂防堰堤工	170	478	648		
								520	1,152	1,672		

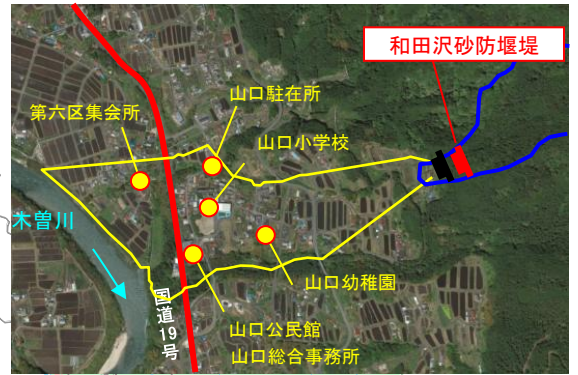


新梨沢第1砂防堰堤

県砂防施設

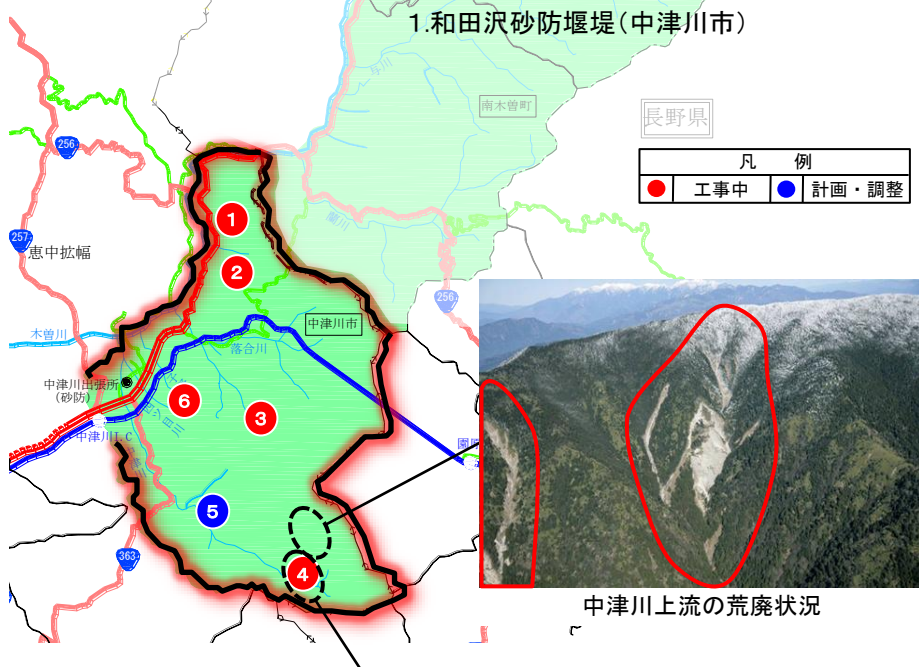


2.新梨沢砂防堰堤(中津川市)



和田沢砂防堰堤

1.和田沢砂防堰堤(中津川市)



長野県

凡例	
●	工事中
●	計画・調整



中津川上流の荒廃状況



平成12年9月の恵南豪雨時の流木による被災状況(中津川支川一ノ沢)

令和8年度の直轄砂防事業（3）

庄内川砂防（岐阜県）の事業箇所

（単位：百万円）

事業区分	水系	河川名	溪流名	箇所名	所在地			工種	R7 補正	R8 当初	計	備考
					市・郡	区・町・村	字名等					
砂防												
庄内川水系												
1	庄内川	笠原川		まやがほらさぼうえんていこうぐん 厩ヶ洞砂防堰堤工群	多治見市	笠原町		砂防堰堤工	-	43	43	
2	庄内川	笠原川	深田洞	ふかだほらさぼうえんてい 深田洞砂防堰堤	多治見市	大畑町		砂防堰堤工	-	31	31	
3	庄内川	庄内川		ふじしたさぼうえんていこうぐん 富士下砂防堰堤工群	多治見市			砂防堰堤工	-	139	139	
4	庄内川	大原川	松坂町1・3	まつさかえんていこうぐん 松坂堰堤工群	多治見市	松坂町		砂防堰堤工	-	31	31	
5	庄内川			つまぎかないさぼうしせつかいらく 妻木管内砂防施設改築	多治見市、 土岐市			砂防堰堤工	140	304	444	
									140	548	688	



3.富士下砂防堰堤工群(多治見市)



2.深田洞砂防堰堤(多治見市)



凡例	
● (Red)	工事中
● (Blue)	計画・調整



庄内川水系砂防



星ヶ台第1・第2砂防堰堤
[多治見市]



雲五川床固工群（流路工） [土岐市]

事務所ホームページはこちら！
<https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>
事務所X（旧Twitter）はこちら！
https://x.com/mlit_tajimi_sb



多治見砂防国道事務所
www.cbr.mlit.go.jp



多治見砂防国道事務所(移動)
Mobile.X.com

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

- 事務所代表 TEL : 0572-25-8020 FAX : 0572-25-7994
- 用地第一課 TEL : 0572-25-8022 FAX : 0572-25-7994
- 工務第一課 TEL : 0572-25-8023 FAX : 0572-25-1038
- 砂防調査課 TEL : 0572-25-8024 FAX : 0572-25-1038

- 上松出張所 〒399-5605 長野県木曾郡上松町栄町2-9
TEL : 0264-52-4863 FAX : 0264-52-2734
- 中津川出張所 〒508-0045 中津川市かやの木町4-1
TEL : 0573-66-1353 FAX : 0573-65-3003